

わか草



第10回 広報誌 平成21年4月1日
発行 東京都立東部療育センター
広報委員会
東京都江東区新砂3-3-25



かもめ分教室 卒業を祝う会にて
(平成21年3月25日 撮影)

「到達点とこれから」 事務長 中村 弘

平成二十一年度東部療育センターは開設四年目になる。基礎をつくりあげ、開き広げる時期から展開期にさしかかっているといえるでしょう。これまでセンターにかかわる様々な人達のエネルギーが今日の基礎をつくってききました。センターには、まだ若々しいエネルギーが残っているし、草創期の状況も関係者の中に鮮明に記憶されている。この時期は、先輩からこれまでのことを直接学び、振り返るためのちょうど良い時期といえるでしょう。

昨年策定した「東部療育センター二〇〇八」では、基礎確立期をへて現在、『医療とQOLの追求』が中期的なテーマとなっております。障害の重い利用者・患者様にとって必ずしも容易なことではないかもしれませんが、この目標に近づくことは利用者・ご家族様、そして職員にとっても共通の願いでもあるでしょう。もちろん、この目標に近づくためには、医療や看護・介護の確かな技術の支えやその他の部門のサポートがしっかりとっている必要があります。職員一人ひとりの研鑽と努力の求められるところでもあります。

これからの療育を展開するにあたって、これまで何が出来ていて、何ができていないか正しく捉えておく必要があります。この三年で利用者様の健康管理などは大きな成果を挙げることができましたが、短期入所の受け入れなどについては十分ではありません。東部

療育センターに寄せられる期待に少しでも応えていくよう更なる努力が求められています。「これから」を考えて行動していくために全ての職場で積極的な取組みを期待します。

利用者様へのより良いサービスの提供と働きやすい職場、働き甲斐のある職場を可能な限り追求するため、「最も弱いものをひとりももれなく守る」という当会の原則を再度確認しつつ、超重症の利用者の療育の先駆であるよう力を合わせていきたいと思います。



乳幼児通所 卒園式にて
(2009年3月26日撮影)

委員会紹介

今月号から四回にわたって、当センターに設置されている、利用者様に関係があると思われる主な委員会を紹介して行きたいと思えます。まず、最初は、事務局が事務局になって開催している委員会からはじめます。

【運営会議】

文字通り院長をはじめとする幹部が集まって、センターの運営について、方針を決定するもので、毎週開催されています。予算や決算から、センターの各種の委員会で検討して運営会議にかけて最終決定にするものや投書などの扱いまで多岐にわたっています。昨年度はセンターの中・長期計画の策定や進行管理なども行いました。利用者の皆様の身近なところでは、オータムフェスティバルやバスハイクなどの年間行事予定の決定などがあります。

【部門代表者会】

センターの各部門の代表が集まって、運営会議で決定したことや、各部門で検討して欲しいことを伝達したり、各部門で現在進行している事項について、各部門が共通の理解をして一体となってセンターの事業を実施していくために隔週で開催されています。最近では、インフルエンザの流行状況を共有して、

ワクチン接種や、うがい・手洗い・マスクの着用など徹底して病棟での流行を防いだことなどがあります。

【運営協議会】

センターの運営について、関係機関の皆様が年一回集まっていたが、事業の実施状況や次年度の運営方針や事業執行についてご意見をいただく会議です。会議のメンバーは、医師会・歯科医師会・薬剤師会の代表、医療連携を行う近隣六病院の院長、近隣四区の障害担当部長、保健所長、特別支援学校長、児童相談所代表、区社会福祉協議会代表、東京都の所管部長などで構成されています。昨年度は、短期入所のことや区の障害者支援の中で、生涯を通しての支援計画の協力などが話し合われました。

【倫理委員会】

当センターにおいて行う医療、療育、医学研究や医学教育等が倫理的配慮のもとに行われ、利用者様の人権や生命の擁護に寄与することを目的に第三者委員も入って設置されています。職員による研究のためデータをご家族の了解を得て行うことの許可について、利用者様の不利益にならないよう、また強制にならないよう慎重に検討しています。

【安全衛生委員会】

職員の健康管理や職場の環境整備など、労働安全衛生法に基づき、従業員五十人以上の事業所には必ず設置しなければならぬ委員会です。管理職と職場代表者、産業医・衛生管理者も加わって構成されています。職員のインフルエンザワクチン接種、腰痛検診、B型ワクチン接種、定期健康診断の実施など健康管理全体の方法などの検討をしました。また、外来やリハビリテーションブースに新たに個別空調の設置を決めました。

【防火・防災対策委員会】

当センターは児童福祉施設なので毎月一回避難訓練を義務付けられています。この委員会は、消防法で定められた消防計画を策定するとともに、いつでも利用者の方の安全のための訓練や備品整備、災害時の薬品や食料の備蓄品の整備を行っています。二月十日には、総合防災訓練を行うとともに、城東消防署による「地震車」の訓練を行いました。関東大震災級の地震や中越地震級の経験をするともに、震度七の地震で椅子を留めていられるかなどを検証しました。

【図書委員会】

職員に最新の医療の情報提供ができるよう図書や定期刊行物の整備・管理



について検討する委員会です。二十年度は図書購入や在庫図書のパソコン管理の導入などについて話し合い、さらに有馬院長から長期にわたり蓄えられた貴重な蔵書や刊行物のご寄贈いただき、その一部を約二〇〇冊に製本し職員が閲覧しやすいように整備しました。

【情報管理委員会】

総合情報システム（電子カルテ・看護療育システム・グループウェア等）を職員が使い易くするために、その運用や問題点及びシステム改修の内容の検討をしています。また個人情報保護の観点から情報セキュリティ対策の検討も行っており、セキュリティ対策の一環として使用時に認証が必要なUSBメモリへの機種の変更とその管理の強化策や院内で撮影された画像の管理方法も決定しています。

【研修委員会】

職員の資質の向上を目指して、各種の研究計画を作成することを目的に開催しています。個人情報保護、褥瘡防止の研修などいくつもの研修を行いました。また、平成二十一年三月十一日には、当センターで初めて「院内研究報告会」が開催されました。センターが開所して三年が経過して、これまで蓄積した経験を広く職員間で共有してサービス向上に努めています。

成人式

当院で行われた成人式を紹介します。

二階西病棟

一月十四日、二階西病棟アイルームで初めての成人式が行われました。成人されたSさんを囲み、お母様、利用者の皆様、病棟スタッフやかもめ分教室の先生方が一緒にお祝いをしました。スタッフが日々練習に励んだ獅子舞あり、生い立ちを振り返る思い出のスライド上映ありで、楽しくも感慨深い式典となりました。中でも盛り上がったのはSさんとかもめ分教室時代の恩師とのサプライズ企画「打ち上げ花火」でした！素敵な花火の映像とともに青春の熱い(?)告白が打ち上げられ、会場の熱気は最高潮に！笑いあり、涙ありの成人式でした。



二階西病棟 成人式

通所

一月十六日(金)通所成人式が行われました。当日は寒い日でしたが多くの方に参加していただきました。

職員のパiano演奏に合わせたの成人者入場から始まり、院長先生やかもめ分教室の先生をはじめとする多くの方からお祝いのお言葉をいただきました。成人者の小さい頃からの写真をお借りして作成したスライドは、思い出の曲をBGMにして、成人者の保護者の方に書いていただいた「二十歳の誓い」を読みながら流しました。これまでの思いや、今の気持ち、そしてこれからのことを聞き、とても感動的な式になりました。また、午後に行われた職員からの出し物では獅子舞が行われました。一人一人の利用者の方に今年も福が訪れますようにとの願いを込めて頭をかじって回りました。

今年の成人式が参加された皆様の大切な思い出の一つになってもらえたらと思います。



通所 成人式

三階西病棟

一月二十一日(水)午後、本病棟アイルームにおいて成人式が執り行われました。

まず主役の成人者一名が大きな拍手の中、羽織袴をまとい登場すると、スタッフによる「よさこいソーラン」で始まりました。踊りの終わりに利用者様みんなで分担し作っていた「祝成人」が書かれた大きな旗がかざされました。祝辞の後にはみんなの知らない成人者様の幼き日の姿をスライドショーにてお父様に振り返っていただきました。そして全員で二〇〇四年NHKのアテネオリンピックのテーマ曲だった「ゆず」の「栄光の架橋」を心を込めて大合唱。続いて同室の利用者様が代表して花束を、スタッフより記念の寄せ書き色紙を渡し、成人者様の笑顔輝くなか無事式が終了しました。



三階西病棟 成人式

東部な〜に

東部のシンボルツリーって何？

当センターにシンボルツリーがあるのをご存知ですか？駐輪場の前に南国の樹木と思わせる“フェニックス”が東部のシンボルツリーです。

大西洋のカナリア諸島原産であることから“カナリヤヤシ”ともいいます。属名は古いギリシャ語でナツメヤシを指す言葉で、エジプトの神話に出てくる“不死鳥”が語源とされ、「センターの皆様が永遠の命を授かり、いつまでも元気に生活できる様に」との想いからシンボルツリーに選ばれた経緯があります。設計段階では、この樹木にハシモックなどを吊るし、のんびり過ごせるスペースとして利用できる様な構想もありましたが・・・？一度、じっくり観察して見て下さい。



東部のシンボルツリー

新人紹介

今号は、大越先生と下町先生をご紹介します。

大越先生

昨年九月から当センターにお世話になっていきます。

これまでは東大和療育センターの隣にある東京小児療育病院に勤めておりました。

有馬正高先生が東京小児の創設にも深く関わっておられたこと、岩崎裕治先生が東京小児に勤めておられたことを知り当センターとのご縁を感じました。出身は旭川医科大学で、東大和療育センターの西條先生と同級生です。大学時代は山登りと笛吹きに、寝食を忘れついでに勉強も忘れ没頭してました。無事卒業できたのは美しい西條ノートのお陰です。西條先生ありがとうございます。

療育は様々な職種の方がいろいろな角度から関わってゆけることに魅力を感じています。

まだまだわからないことばかりですがどうぞよろしくお願い致します。



病棟入口に置いてあった雪だるま

下町先生

昨年十月から歯科外来で診療させていただいています。今まで障害児の本格的な治療経験がなく、始めはおそろおそろといった感じでしたが時間が経つのは早いもので、最近は少し慣れてきたかなといったところです。

どうも歯科外来は嫌われ者のようで、来たときに眉間にしわが寄ったり、泣いたり暴れたり逃げ回ったり・・・来てすぐの頃はそれも仕方のないことと思っていました。歯科以外のところで見せる、患者さんたちの笑顔や楽しくお話しする姿などを見るにつけ歯科でももっとそういう姿が見たい、と思うようになりました。歯医者さんが楽しみと思ってもらいたい、それが無理ならせめて少しでもリラックスしてもらいたい、と思う今日この頃です。まだまだ歯科医としても未熟者で自分自身に余裕のない毎日ですが、精一杯頑張っていきたいと思えますのでよろしくお願ひします。



東部療育センター周辺の桜並木

東部あれこれ

今年の一月から三月にかけて当院で行われた行事等について紹介します。

【一月】

七日、通所ホールで江東区第二砂町中学校吹奏楽部（女子学生二十名）によるコンサートが開かれました。昨年からのボランティアとして演奏していただいております、フルート、クラリネット、サクソフ等の素晴らしい音色が会場いっぱいに広がり、通所者、保護者の方、職員とも聴き入りました。

十四日から二十日にかけて、毎年実施している福祉サービスマス第三者評価の場面観察調査が、入所・通所とも実施されました。三月ごろまとめられる予定です。

三十日夜、職員互助会による懇親会がホテルイースト21で開かれました。委託職員を合わせ、百三十三人が出席して親睦を深めました。

【二月】

十日午後、総合防災訓練が実施されました。一階洗濯室のガス乾燥機から火災が発生したとの想定で、災害対策本部の設置、本部への情報伝達、本部からの指示、初期消火、避難誘導等の訓練を行いました。この後、消防署の

指導の下、起震車による地震の体験をして終了しました。

二十六日、都内重心通所施設連絡会議が当センターで開催され、二十施設四十名が参加しました。会議の後、見学会が行われました。

【三月】

十一日午後二時から研修室で、センターとしての初めての院内研究報告会がありました。

各部門から計九つの演題が報告され、慎重に審査した結果、最優秀賞に薬剤検査科 放射線室、優秀賞に栄養科、敢闘賞に二階西病棟、そして特別賞には二階南病棟が選ばれました。



院長（中央）と表彰者の皆さん

編集後記

わか草第十号をお届けします。春になり、卒業式や終業式が開かれ、年度の節目を迎えております。巻頭言にありますように、東部療育センターも四年目に入り、より良い療育環境を提供できるように、気を引き締めていきたいと思ひます。